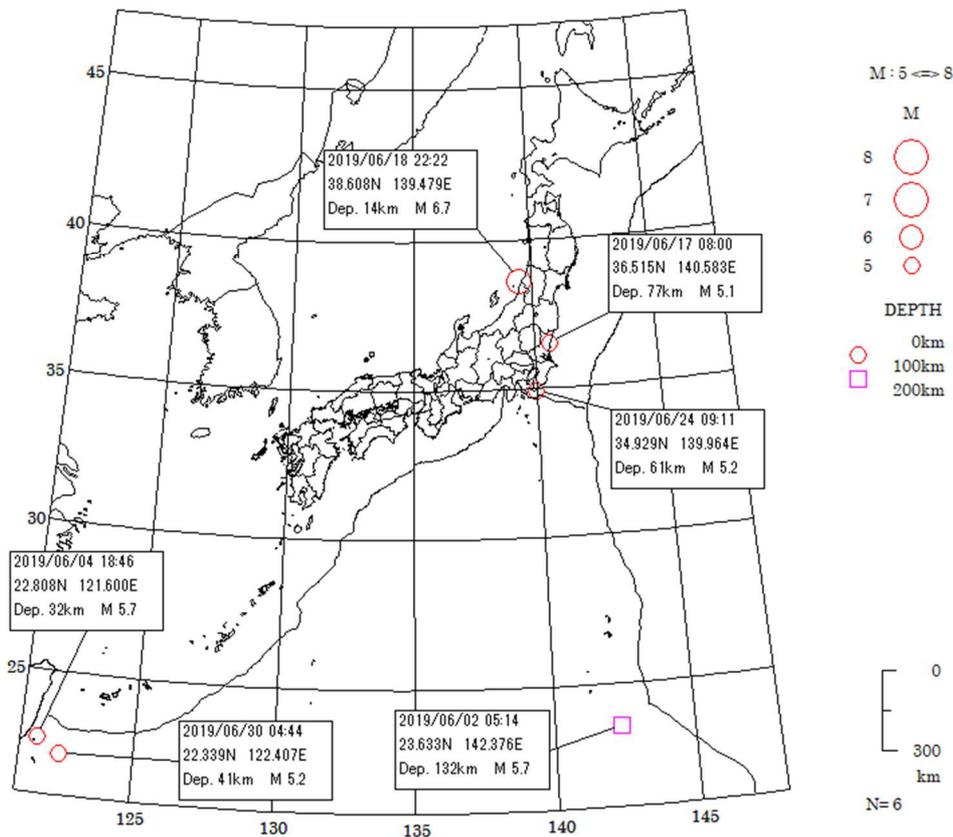




2019年6月の地震活動概観

2019年6月に日本列島およびその周辺海域では、マグニチュード5を超える地震は6個発生しました。先月まで、南海トラフや台湾周辺での活動が目立っていたのですが、6月は18日に発生した山形県沖の地震が、1地点とはいえ、震度6強を観測したため話題となりました。

2019 6/1 0:0 -- 2019 6/30 23:59



2019年6月にマグニチュード5以上を観測した地震(6個)

この地震に関して、株式会社サーベイリサーチセンター(<https://www.surece.co.jp/>)が、その時に日本に滞在していた訪日外国人旅行者や在住外国人が「どのような行動をとったか」「避難時に困ったことは何か」などについて新潟空港にいらした方に対してアンケート調査を実施し、その結果が観光経済新聞で公表されています。

<https://www.kankokeizai.com/%E3%80%90%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%80%91%E5%B1%B1%E5%BD%A2%E7%9C%8C%E6%B2%96%E5%9C%B0%E9%9C%87%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E8%AA%BF%E6%9F%BB/>

今後、さらに増加が見込まれる訪日外国人旅行者や在住外国人に対する災害発生時の情報発信方法などについてヒントが得られそうです。アンケート結果からは、やはり多言語での情報発信が鍵となりそうです。

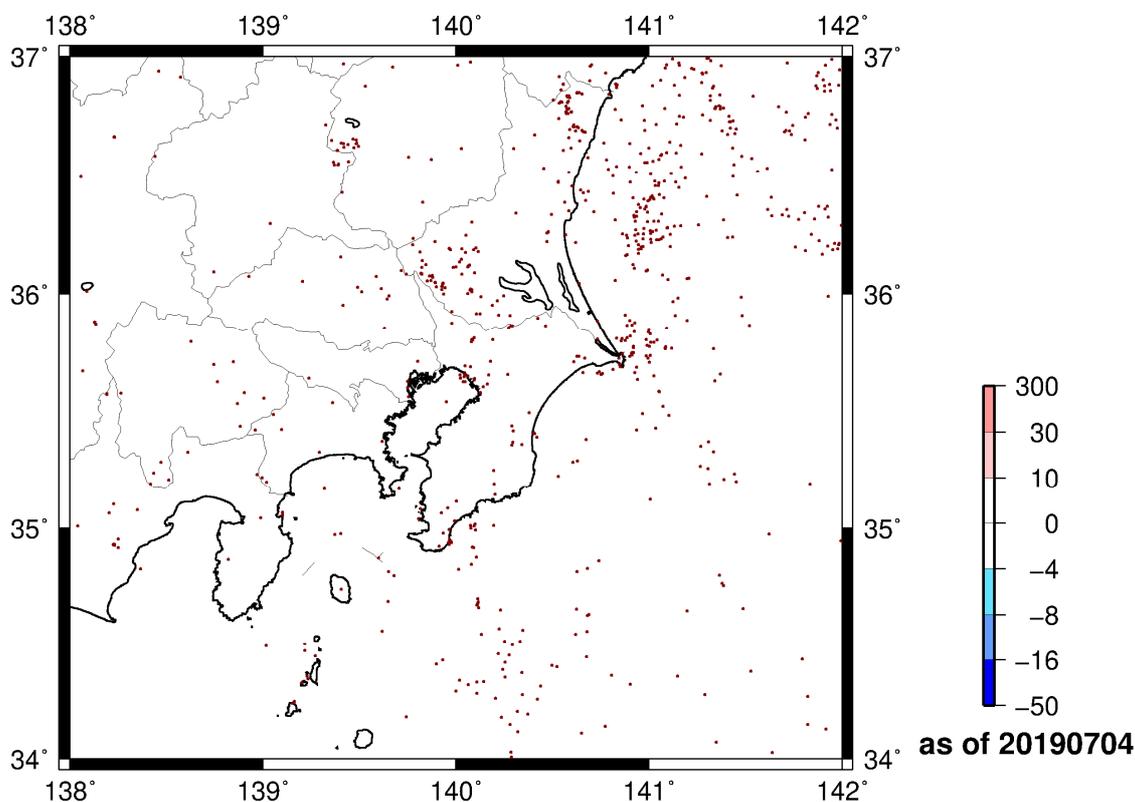


首都圏の地下天気図®

5月27日のニュースレターに引き続き、7月4日時点の首都圏に特化した地下天気図をお示します。首都圏は、直下にフィリピン海プレート、その下に太平洋プレートが存在し、非常に深い所まで地震が発生していますので、首都圏では、深さ20kmあるいは60kmという深さを基準として計算を行っています。今回は深さ20kmを基準として計算した地下天気図です。

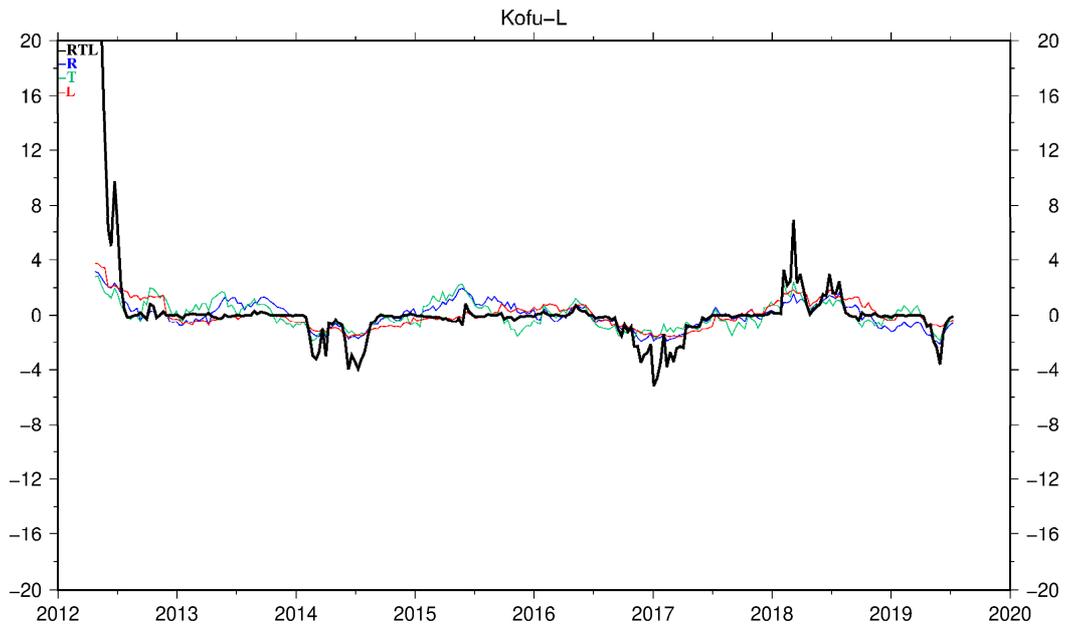
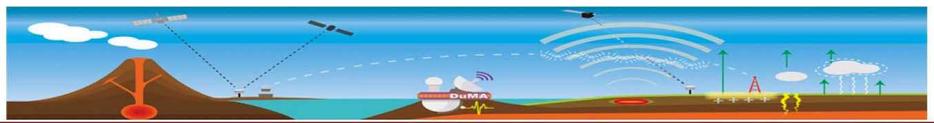
5月27日の段階で、「少し首都圏の地震活動の状況に変化がありそうだ」という事をお伝えしました。しかし7月4日の段階では、L タイプ、M タイプのいずれの地下天気図も静穏化の異常は観測されていません。

下の図で、茶色の小さな点は4月以降に発生した地震を示します。甲府周辺で観測されていた静穏化の異常は地震活動のゆらぎの範囲と考えられ、現時点では特に問題視する必要はなかったと考えています。



次のページには、甲府盆地のほぼ中央(北緯 35.6 度, 東経 138.6 度)における地下天気図の時間変化のグラフです。

2012年のグラフが大きく上のほうに行っているのは、東日本大震災の影響で、首都圏全域に渡って地震活動が活発化していた事を意味しています。その後は消長を繰り返している事がわかりますが、現時点で深刻な地震活動の静穏化には至っていない事がわかります。

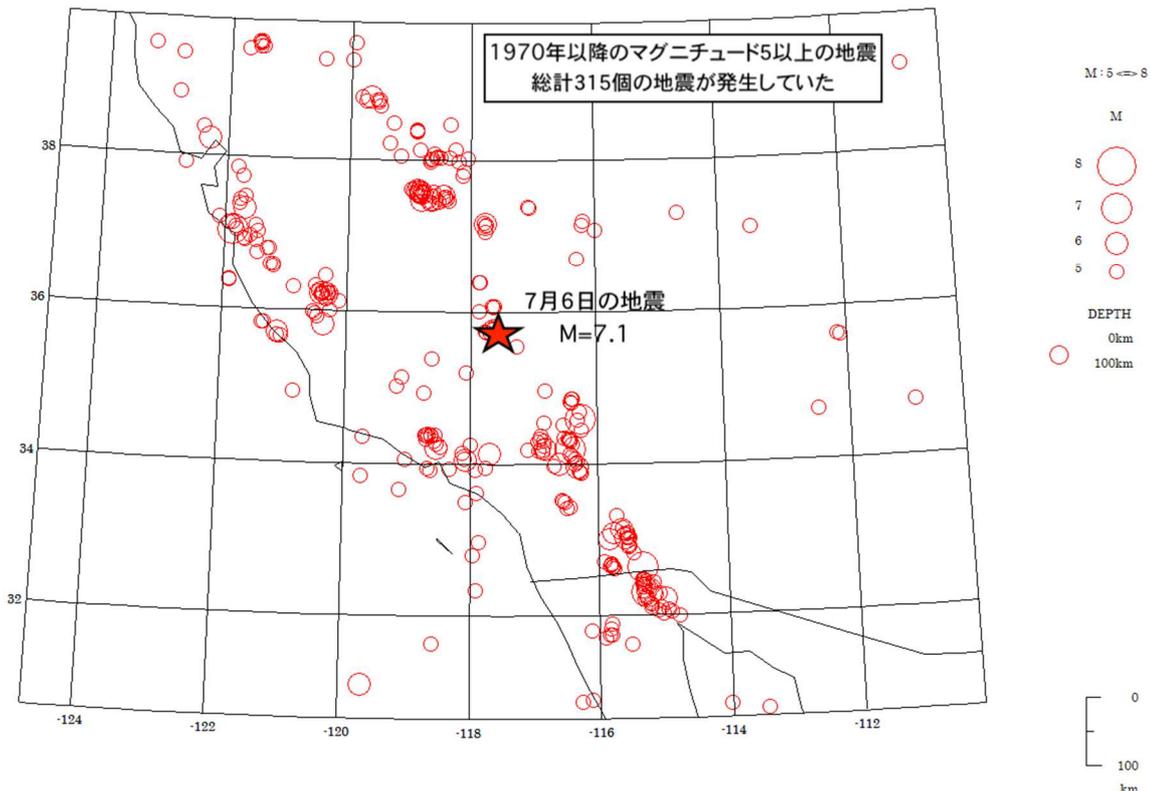


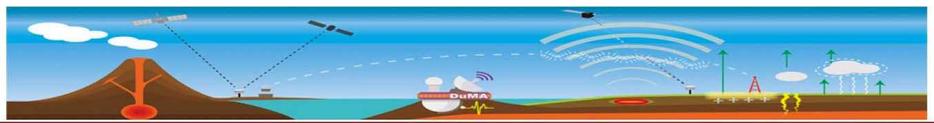
甲府盆地における地下天気図の時間変化

<速報>

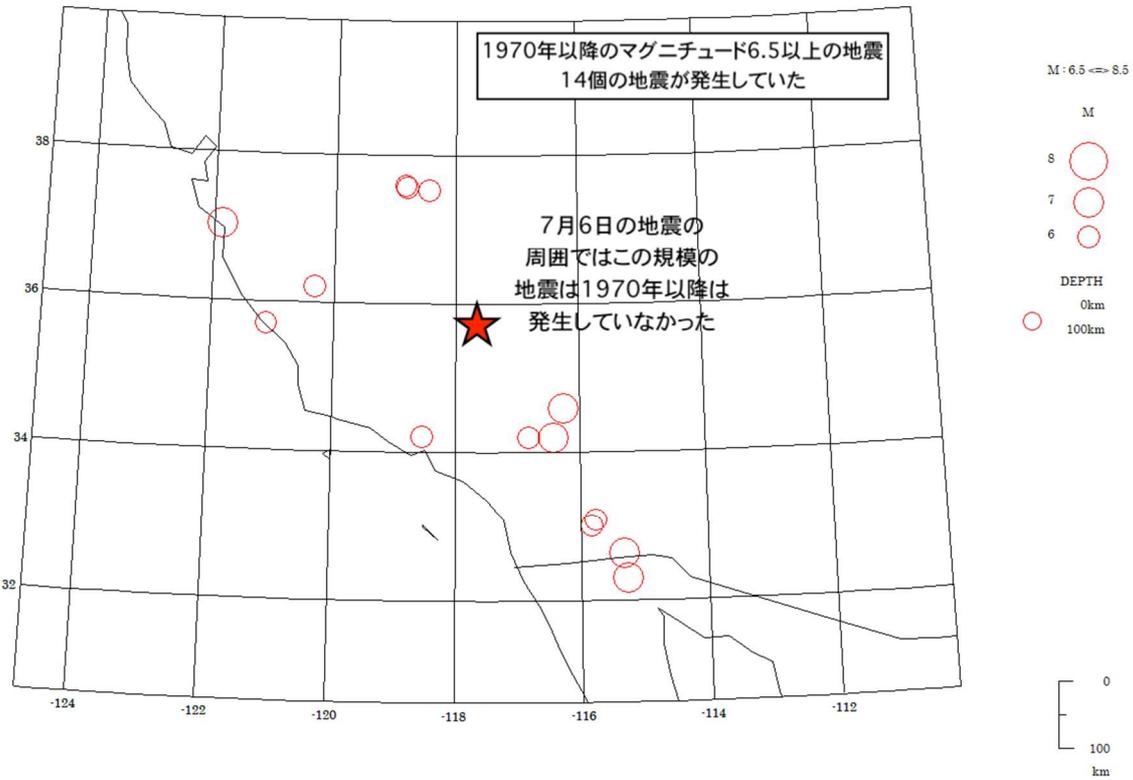
7月6日、カリフォルニア州のリッジレストでマグニチュード7.1の地震が発生しました。幸い日本時間の6日時点では死者は出ずに済んでいるようです。この地震はその前の日にマグニチュード6.4の地震が発生し、結果的には2016年の熊本地震と同じ前震-本震型の地震活動となりました。

下の図は、カリフォルニアを中心としたマグニチュード5以上の地震の分布です。今回の地震の場所も過去に活発な地震活動が観測されていました。





下の図は、マグニチュード6.5以上の地震を図示したものです。今回の震源地近傍では、少なくとも1970年以降では、初めての大きな地震発生であったと言う事ができます。



次の図は、上の地図の範囲の地震がどのような時間間隔で発生していたかを示したものです。マグニチュード7を超える地震はおおよそ10年に一度程度の割合で発生している事がわかります。

